

## 入選作品（C分野）

科学の進歩がもたらすもの

亀岡市立育親中学校 三年 小林 波琉人

昨年は多くの災害が日本で発生した。また、今年も台風による被害が発生している。私達の地域でも地震や豪雨により大きな被害を受けた。誰もが災害による被害が年々大きくなっているように感じているはずだ。

しかし、地震や大型台風は昔から周期的に起こっていたらしい。また、大地震も昔からあった。それなのに、なぜ最近被害が大きくなっているのだろうか。

科学技術の進歩は人類の生活をとても便利なものにしてくれた。テレビや洗濯機、冷蔵庫は私達の生活に必要不可欠なものになったし、自動車や高速道路は移動の面でとても役に立っている。私達の今の便利な生活は科学技術の進歩のおかげで成り立っているとと言っても過言ではない。

しかし、建物が高層化するまでは地震の被害はもっと小規模なものだった。しかし、今では建物の倒壊が地震による被害をより大きくしている。阪神・淡路大震災では高速道路が倒壊した。停電するだけで多く機械は機能を失った。災害対策のために作られた堤防が下流の町を洪水にすることもある。このように、科学の進歩により、人工的な環境が広がり、より多くの被害が出てしまふ、というようなことが起こっている。科学技術の進歩と災害は

無関係ではないのだ。

しかし、一方で人類はよりよい暮らしを求め続ける。科学は人類の英知であり、それを捨て、昔の暮らしに戻ることができだろうか。移動手段はほとんどが徒歩で、通信手段も無くなり生活範囲は縮小する。電気や医療技術を手放すことはできるはずが無い。つまり、科学技術の進歩も災害の被害の対策もどちらも受け入れる道が必要なのだ。

災害への対応は急務だ。その対応の一つとして情報の重要性を再確認すべきだと考える。今は一人一台コンピュータを持っている時代で、スマホのアプリからも色々な情報が得られる。それを防災に活かすことが必要ではないだろうか。昔は災害が起きてから避難することが一般的だったが、今は災害が起きる前から情報を得ることができる。多くのメディアがある現代では欲しい情報をすぐに得ることができる。すぐに避難することの難しい高齢者や障がい者の方々の早期避難にも役立っている。災害が一年に何度も起こる日本では発達した情報網が多くの人々の命を救っているのは確かだ。

科学技術の進歩は災害の被害を大きくする存在ではあるが、その発達した科学技術を有効に活用すれば、災害を減らすことはできなくても被害を最小限にすることができる。その方法の一つが情報なのだ。

情報を使い、災害の被災を未然に防ぐことがこれからより求められるだろう。ただ忘れてはならないことは、情報弱者の存在である。情報を上手く使いこなせる人が、その弱者が存在することを常に意識することで、科学の進歩が人々にもたらすものは大きいと考える。

